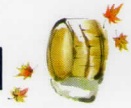


「夫と歩んだ日々

すべてが宝物です」



六十歳頃まで家族のために一生懸命仕事を

頑張ってきた夫は、引退後 ゆつたりと時が流れる

毎日を過ごしてきました。山菜や山芋、たけのこなど

自然の恵みをとつてきては台所に立ったり、干し柿や

梅干しを作ったり、旬でおいしいものを皆に振る舞つて

くれたものです。頑固で多くを語るほうではない

夫でしたが、そういった行動のひとつひとつから愛情は

伝わってきました。

夫婦で京都旅行に出かけたのは三年ほど前のこと。

残念ながら紅葉は例年にまさる美しさではなかった

ものの、夫との大切な思い出としてこの胸にしっかりと

刻まれています。

入退院を繰り返すようになってからも、夫は顔を上げて

歩み続け、これまで家族のそばにいてくれました。

きつと家族のことを思つて、力の限り頑張ってくれたの

でしょう。

「お父さん ありがとう」

溢れる気持ちが届くよう願ひ、そつと手を合わせます。

十分頑張ってくれましたので、これから大好きな温泉に

浸かり、ゆつくり休んでほしいと願っています。

夫 八木 千年 は、平成二十年十月十五日、

七十六年の生涯を終えました。

素晴らしいご縁を結び、夫の人生に彩りを添えて

くださった皆様へ、深く感謝申し上げます。

本日はご多用中にもかかわらずご会葬頂きまして

誠にありがとつございました。

略儀ながら書状をもつて厚く御礼申し上げます。

平成二十年十月十七日